



株式会社 釧路新聞社
代表取締役社長

星 匠 HOSHI TAKUMI

創

業70周年、誠におめでと
うございます。

人が70歳を迎えると古稀(こき)と言われます。日本の平均寿命は80歳を超えましたが、一昔前は70歳を全うするのは稀(まれ)でした。人の寿命は延びましたが、会社を70年続けるのは今も稀(まれ)です。大西雅之代表取締役社長をはじめ、携われている皆さまの日々たゆまない努力の成果であり、心から敬意を表します。

私は1987年から92年までJTB釧路支店に勤務していました。バブル経済華やかな時代で国内ばかりでなく海外旅行

も盛んでした。そんな時、阿寒町(現在は釧路市)阿寒湖温泉と弟子屈町川湯温泉の宿泊施設を対象に、格安宿泊プランを同支店でつくりました。その中に阿寒グランドホテルもあり、お客さまに勧めていた記憶があります。

弊社に転職し記者として阿寒町を担当することになりました。ちょうど別館が開業した頃で、その豪華さに圧倒されました。グランドホテルをよく知っていましたので隔世の感がありました。まだまだ大型バスによる団体旅行が主流の中、個人客をターゲットにする方針のも

と、それを体現した大西社長に感服したのを今でも覚えています。

あれから30年が経過し、インターネットの普及や旅行ニーズの多様化により個人や小グループで旅することがすっかり定着しました。大西社長は阿寒湖温泉のみならず、観光業界全体の行く末を早くから見通していたのでしょう。

もう一つなずいたことがあります。それはアイヌ文化を積極的に取り入れたこと。もともと阿寒湖温泉はアイヌ民族の皆さまとの関わりは非常に深いのですが、環境問題が地球規模

で語られ、また、世界で紛争が続く現状を鑑みると「自然と人の共生」「人間とはどう生きるべきか」を考えさせるアイヌ文化を発信することは大きな意義があります。

最後に、今後も業界はもちろんのこと、ひがし北海道の発展のため地域をさらに強く牽引されることを祈念し、ごあいさつとします。